



2023. 9.10

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会
akatsukanirinso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 41 年目
2023 年度は東京都都市公園制度制定 150 周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 10 月予定

・赤塚公園どんぐりまつり 10/7 10:00~15:00

中央地区サービスセンター前（雨天予備日 10/8）

・秋の手入れ活動 10/15、10/29、11/5、11/12

（上の 4 回の雨天予備日 11/19）

いずれも 10:00 大門観察台集合、11:30 頃解散

★団体活動ではありません。参加者個々人の自主活動の集まりです。誰でも参加できます。活動現場ではリーダーの指示に従っていただきますが、自由参加です。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

秋の手入れ活動 始まる

9/10 「伸びすぎた野草」の抜き取り 15 名参加



3 月には一面にニリンソウが広がり、太陽の

光も注いでいて清々しい感じの大門地区ニリンソウ自生地ですが、落葉樹の葉が広がり暗くなった夏場は「訳の分からない『雑草』が伸び放題ではないか」と、がっかりなさる方が多いと思います。しかし、これが普通の姿。これらは「雑草」ではなくて、ひとつずつ命も名前もある生き物なのです。野に生きるから野草。武蔵野台地の崖線の下に昔から生きているたくさんの野草を生かしていくのがここの林と草原の管理目標です。それでも、ニリンソウのメインステージ（上の写真左）ではヤブミョウガが目立っています。実を付けたウバユリも目立っています。背が高い草なので、あまり伸びすぎると地面に光が当たらなくなるし、種子が飛び散ると翌年はもっと繁殖して背丈の低い野草が生きづらくなります。



そこで、9/10 の手入れ作業はニリンソウのメインステージでは、ヤブミョウガとウバユリの抜き取り作業を行いました。抜き取った後には、絶滅危惧種のハグロソウがたくさん花を付けていました。希少種のイヌショウマも生育域が広がっていました。ヤブラン、ヌスビトハギが満開でした。



4年前に擬木柵を後退させて生物多様性保護エリアを拡大したところには、ガガイモが初登場。そのほかにもヤナギイノコズチ、ダイコン



ソウ、ハグロソウなどの野草が生えてきたので、それらを覆ってしまうクズなどのつる植物やアカメガシワの実生などを抜き取りました。上の写真左が作業前、右が作業後の状態です。

試行錯誤を繰り返しながら、生物多様性の保全に励みます

10月の中頃からは、冒頭ヘッドにご案内しているように本格的な手入れ作業に入ります。かつてない異常気象は野草の生育にも影響を与えているのですが、どうしたらたくさんの野草が生きていける林と草原を残せるのか、いろいろ勉強をしながら頑張りたいと思います。

みなさまのご理解・ご支援・ご参加、よろしくお願いいたします。

10/7は赤塚公園どんぐりまつり 友の会7団体・機関がブースで楽しい工作・展示

ニリンソウを守る会は、「シュロの皮でミニほうきをつくろう」と「こっぱ人形に顔を描く」という2つの工作コーナーを出店します。

9/10の例会は、その予行演習を行いました。



シュロの皮は昔は縄になえたり、小帚（こぼうき）に使ったりの生活必需品でした。お仲間の長老・片平さん発案で、その復活を試みる企画です。



もう1品、こちらも長老・宮澤さん発案で、木っ端（こっぱ）を組み合わせて、そこに顔を描くという、誰でも出来るプログラムです。



当日ご参加の方には「赤塚公園の希少植物のしおり」プレゼントもあります。